三木の元気を
みる、きく!

by KOBEYA SPORTS

ミキキ

vol.4

2025 春号

Miki No Genki Miru! Kiku! Mikiki!

みんなで身体を動かせば出会いが生まれる

kikiki PARKのオープンから1年が経ちました。
この場所がもっと地域の人々に愛される場所に
なりますように。

Let's play!

モルック！

2025年3月30日、kikiki PARKでモルック大会が開催されました。今回は、三木市立三木コミュニティスポーツセンターからお声がけいただき、スポーツセンター主催での開催となりました。以前、kikiki PARK主催のイベントにご協力いただいたご縁もあり、開催場所として選んでいただきました。大会には大人子ども問わず8チームが出場し、大会を観戦する人々も集まっていました。また一歩、地域の方々と近づくことができたモルック大会の様子をレポートします。

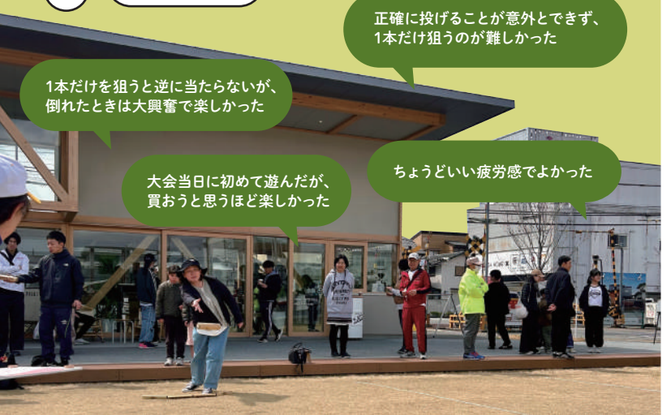
モルックとは？

モルックはフィンランド発祥のスポーツ。モルックと呼ばれる木製の棒を投げ、1から12の数字が振られたピン(スキットル)を倒します。複数のピンが倒れたときは、倒れた本数が得点になり、1本だけ倒れたときはピンについた数字が得点になります。合計点数が50点ちょうどになれば勝利。単純にピンを倒すだけではなく、モルックを投げる技術と戦略が必要なので、子どもから大人までみんなで楽しめます。

いかに1本だけ倒せるかが勝負！

50点を超えると25点に減点されるので注意！

参加者の声



日曜日のkikiki PARKの芝生は大勢の活気に包まれました。参加者の皆さんは試合を重ねるごとにスキルアップしていました。スキットルが1本だけ倒れるとあちこちから歓声が聞こえてきます。なかなか思うように投げられなかった子も、スポーツセンターの方に教えてもらうとすぐに上達。「最初は悔しかったけど、当たるようになって楽しかった」と話します。そして試合開始から約2時間、優勝チームが決定し、三木市で収穫されたイチゴが送られました。大きな拍手に包まれながら、モルック大会は終了しました。

mini INTERVIEW

優勝は三木市で働く同僚チーム「よいやさ」。表彰式のあと、お話を伺いました。

Q 優勝したお気持ちは？

A まさかという気持ちですが、楽しみながら参加できました！

Q 大会にむけて練習はしましたか？

A 練習は特にしませんでしたが、3年ほど前にモルックを買って、BBQをしたときに遊んでいたのでそれのおかげだと思います。

Q モルックの楽しさは？

A 初心者でも経験者と同じレベルですぐに競えるところが魅力だと思います。

INTERVIEW

今回お話を伺ったのは「S-BASE」の清水ひとみ代表。S-BASEは三木市内で不登校の子どもたちの支援を行っており、子どもたちの「わくわく」を一緒に見つける手助けをすることで、学校以外の居場所を提供しています。今回は、S-BASEの方針や将来、転機となったエピソードなどをお話ししていただきました。

清水 ひとみ しみず ひとみ

フリースクールS-BASE代表。2020年に三木市の自宅を開放して設立し、2023年に同市内で2号店を開校。不登校の子どもたちや保護者に寄り添い、共に歩みながら学びや挑戦を支援。社会とつながる力を育み、子どもたちの世界を広げることを目指している。

S-BASE はどんな支援を行っているのですか？

清水：今の子どもたちは学校では協調性を求められ、一方で社会に出ると個性が大事だと言われます。こうした社会のなかで、自分らしく生きていないと気づいた子どもたちが学校に行けなくなっています。S-BASEでは不登校になったことをチャンスと捉え、子どもたちが自分で選択することを重視しています。例えば、S-BASEが開催するイベントに参加することが良くて、参加せずにゲームをすることが悪い、と考えるのではなく、自分でゲームをすることを選んだことが良いと考えます。これを繰り返していると、子どもたちの考えが不思議と「自分のことは自分で決めていいんだ」と変わって、自分で頑張ってくれるんです。

スタッフである大人と子どもたちの関係性はどのようなものですか？

清水：定期的に行うミーティングのお題を「スタッフの困りごと」にして、子どもたちに相談しています。以前、S-BASEから帰る時間になっても子どもたちが帰ってくれないことを話しました。「居心地がいいのは嬉しいけど、スタッフたちも自分の生活があるから困ってます」と言うと本当に早く帰ってくれるようになりました。1人の人間として扱っていることが子どもたちにも伝わっているんだと思います。

同じ境遇にいる方々が投稿を見て「学校に行ってなくても楽しんでいいんだ」「こういう学びもあるんだな」と思ってほしいという思いから、Instagramは顔出しで投稿中。

Instagram

S-BASE を運営するなかでご自身の考えが変わったエピソードを 1 つ教えてください。

清水：現在、S-BASEでは利用料をいただいていますが、立ち上げた当初は「お金を取ったら悪だ」と思っていたので、利用料をいただけませんでした。その頃は無料でやろうと思っていましたが、1人目の利用者の子が中学に上がるタイミングで一度S-BASEを巣立ったんです。その瞬間に「あの子が帰ってくる場所を継続させる責任がある」と思い、それ以降利用料をいただくようになりました。私個人の心のモヤモヤだけでS-BASEという居場所がなくなるのは、子どもたちにとって不幸せなことだと思っています。

清水さんは、S-BASEの設立直後は利用者がほとんどいなかったと話します。そこで売上や集客を求めすぎるのではなく、本当に不登校支援を必要としている人のために活動しようと決意してWEBサイトをリニューアル、するとすぐにS-BASE への問い合わせが急増し、2号店を開校するまでになりました。

WEBサイト

S-BASE の将来について教えてください。

清水：子どもたちのサポートを始めて約5年、最初に利用してくれた子たちが高校生になりました。子どもたちは、かつて不登校を経験し、S-BASEで伴走を受けながら、自分らしさを取り戻して社会へ踏み出していきました。今後、大学生や社会人としてさまざまな経験を重ねた彼らが、今度はそれらを携えてS-BASEに戻り、今の子どもたちのそばで新たな一歩を後押ししてくれる。私はこれを「学びの循環」と呼んでおり、これからのS-BASEで育みたいと思っています。

コーベヤの中の人たち

さまざまな質問からコーベヤで働く人たちの人となりが見つかる！

八木 啓太 やぎ けいた　エリア創新部 GLOVE STUDIO 店長

GLOVE STUDIOの店長として、野球用品を販売し、グラブの修理や型付けなどのサービスも提供しています。
またメーカーと連携してイベントの企画も行っており、地域の野球ファンやプレイヤーをサポートしています。

Q 最近購入したお気に入りのものは？

A 『プロ野球選手名鑑』。毎年買って色々勉強しています。

Q 仕事の楽しさを教えてください

A これまで培ってきた技術や知識を活かし、選手のパフォーマンス向上に貢献できたときは、仕事冥利に尽きる思いです。

Q マンガを読むならスマホ派？紙派？

A 紙派

Q 好きなスポーツ、または得意なスポーツはありますか？

A 小学生から大学まで野球をしていました。こう見えて、夏の選手権（甲子園）に出たこともあります！

Q 今後の目標は？

A お客様一人ひとりに合ったグラブやバットを提案し、修理や型付けなどのサービスもさらに強化することで、地域で一番頼りになる野球ショップを目指したいです。

Q 最近応援しているスポーツ選手は？

A 阪神タイガースの髙橋遥人選手です。何度もケガを乗り越えて復帰を目指している姿と、伸びのある球筋がすごく好きなんです。

Q 最近ハマっていることは？

A Netflixの一気見。最近では『SPY×FAMILY』を観ました！

Q 仕事の必需品はありますか？

A 「手の感覚」と「仕上がりをイメージする力」です。型付けや修理では、完成形をイメージしながら作業することで、より精度の高い仕事ができると思っています。

編集後記

昨年の4月ごろから『ミキキ』発行の準備を始め、今回の春号で季節が1周しました。嬉しさと達成感を感じています。ここまで読んでくださった方々、ありがとうございました！

今回の『ミキキ』春号では、三木市立コミュニティスポーツセンター主催のモルック大会を取り上げました。当日のkikiki PARKはスポーツ大会らしい、非常に活気あふれる雰囲気でした。一方でお子さんにモルックの投げ方を教えてあげたり、一投をみんなで応援したりと和やかな雰囲気もあり、とても心地よい時間が流れていました。

インタビューではS-BASEの清水代表にお話を伺いました。WEBサイトのリニューアル費用をまかなうために、支援事業と並行してアルバイトをされていたエピソードをお聞きしました。その献身さに本気で不登校の子どもたちを助けたいという気持ちを感じました。貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございました。

今後もコーベヤの情報をお伝えできるように精進していきます。それでは次号でまたお会いしましょう！

【編集フジワラのつぶやき】

モルック大会を取材しているとき、私もモルックをやってみたいという気持ちがどんどん大きくなりました。ルールもシンプルで、誰でもすぐに始められるところが魅力的だと思います。まずはkikiki PARKでの練習から始めようかと思います。上達したらコーベヤ社員を集めた「コーベヤ杯」なんかも楽しそうです。

企画・制作
KOBEYA SPORTS
株式会社コーベヤ 管理部
兵庫県三木市加佐340
TEL 0794-83-6399
2025年6月1日発行